

環境科学技術研究所(IES)－国際放射線防護委員会(ICRP) 共催シンポジウム

# ICRP 放射線防護体系における環境防護

科学・知識から応用に向けて

ENVIRONMENTAL PROTECTION WITHIN THE ICRP SYSTEM OF RADIOLOGICAL PROTECTION

From science/knowledge to application

従来、放射線防護体系では防護の対象は主として人間であり、環境は放射性物質の移行経路としてのみ考慮する対象として捉えられて来ましたが、2007年のICRPの勧告において人の健康の防護に加え、新たに「環境への防護」が加えられました。このため、ICRPは2005年に環境への防護を専門に取り扱う第5専門委員会を設置し、国際的な枠組みで環境防護に関する課題について検討を行い、ICRP報告や勧告という形で各国の専門家、規制当局に向けて公表しています。

一方、環境科学技術研究所では、六ヶ所村に生息する動植物を対象とした線量評価に取り組むとともに、今後はその影響評価まで研究分野を広げるべく活動してきています。そこで、環境科学技術研究所はICRP第5専門委員会との共催で、福島事故後の環境防護に関するシンポジウムを下記の通り開催することとしました。

皆様のご参加をお待ちしております。

## 記

場所：六ヶ所村スワニー 第1・2会議室（上北郡六ヶ所村尾駸野附1-8）

日時：2016年10月4日(火) 10：30～17：10

## 講演プログラム

10：30～10：40 開会挨拶

オレゴン州立大学【米】 Kathryn A Higley 教授

10：40～11：10 ICRPの概要及びその中での第5専門委員会の役割について

オレゴン州立大学【米】 Kathryn A Higley 教授

11：10～11：50 環境防護のコンセプトと現在の第5専門委員会

スターリング大学【英】 David Copplestone 教授

11 : 50~13 : 00 ランチタイム

13 : 00~15 : 00 パネルディスカッション「日本の現状を踏まえた環境防護の諸課題」  
放射性物質の移行

ノルウェイ放射線防護庁 Per Strand 教授

線量の評価

ドイツ研究センターヘルムホルツ協会 Alexander Ulanovsky 博士

影響の評価

放射線防護・核安全研究所【仏】 Jacqueline Garnier-Laplace 博士  
RBE で荷重した吸収線量

エネルギー・環境・技術センター【西】 Almudena Real 博士  
ICRP 放射線防護体系における環境防護

スターリング大学【英】 David Copplestone 教授

15 : 00~15 : 15 休憩

15 : 15~16 : 45 線量評価及び影響評価に関するトピックス

野生生物の線量評価とそれらの自然線量

環境科学技術研究所 大塚 良仁 博士

福島県におけるアカネズミの線量評価とその影響

弘前大学 三浦 富智 准教授

福島第一原子力発電所周辺での天然樹木における形態的欠陥

量子科学技術研究開発機構 放射線医学総合研究所  
渡辺 嘉人 博士

16 : 45~17 : 00 発表総括

東京保健医療大学 酒井 一夫 教授

17 : 00~17 : 10 閉会の辞

オレゴン州立大学【米】 Kathryn A Higley 教授

環境科学技術研究所 久松 俊一 理事

<なお、本シンポジウムは全て英語での発表であり、通訳はつきません。>